



白百合女子大学×カルピス株式会社発酵応用研究所 共同研究発表 「カルピス」から生まれる子どもの心の成長



概要

希釈して飲む「カルピス」を親子で一緒につくって（水で割って）飲む体験が、活発な親子のコミュニケーションを生み出し、子どもの健やかな心の成長に貢献することが、日本発達心理学会第26回大会（2015年3月20～22日、東京大学）にて、白百合女子大学とカルピス株式会社発酵応用研究所との共同研究の結果として発表されました。

今回の発表は、かねてよりカルピス株式会社が取り組んできた“心の健康”研究に、本学生涯発達研究教育センター（所長：田島信元教授）が共同研究という形で取り組んできた成果の一端で、現在、幼児・児童・青年期だけでなく、親の年代から高齢者までを含む生涯発達支援を展望した社会的貢献活動の礎になることを目指して、発展研究が進行中です。

■共同研究概要

乳酸菌飲料「カルピス」を親子で一緒につくって飲む場面の観察、および親子が一緒に行うさまざまな活動場面（お絵かき・工作や一般調理活動など）との比較に関する質問紙調査から、心理面への影響について検証しています。その結果、「カルピス」を親子で一緒につくって飲む体験は他の活動に比べても、より質の高い親子のコミュニケーション、コラボレーションを生み出すとともに、そこからの自立も容易に促す活動となっており、子どもが自分で考える力や、人につくってあげることを通して人を思いやる心を育む絶好の機会になることが示唆されました。

「カルピス」をつくることは、簡単かつ安全で、子どもに任せやすい、しかも科学的・論理的側面をもった共同調理活動であるため、親が見守り、子どもが自分なりに考えて取り組み、ともに成果を味わい、喜ぶ過程で、思考力や社会・情動的発達を促す機会になったと考えられます。

■カルピス株式会社 発酵応用研究所

“心とからだ”の健康に役立つ商品・技術を提供することを目指し、乳酸菌など微生物の研究とともに、「カルピス」をつくって飲むことの心理面への影響についてもさまざまな観点から研究を行っています。

■白百合女子大学・生涯発達研究教育センター（所長：文学部教授 田島信元）

生涯発達心理学に関わる基礎研究・実践研究を広く推進していくための学内、国内、世界の研究者、大学院生に開かれた施設です。学内外の研究者、あるいは地域の教育・行政団体や民間企業の研究・教育担当の方々との共同研究を通して、基礎的なデータを収集し、データベースを構築して、生涯発達の支援に関わる実践や学生の教育に役立てていくことを目指しています。年報「生涯発達心理学研究」を発刊しています。

■大学背景

1965年創立の女子大学。キリスト教、特にカトリシズムの世界観による人格形成を教育の基本理念とし、設立母体であるシャルトル聖パウロ修道女会の創立の精神に則り、知性と感性との調和のとれた女性の育成を目指しています。2016年4月発達心理学を専門的に学ぶ「発達心理学科」を含む「人間総合学部」を新設予定。（構想中）

※「カルピス」は、カルピス株式会社の登録商標です。

【本件に関する問い合わせ先】

白百合女子大学 入試・広報課（担当）遠藤

[TEL] 03-3326-8092 [FAX] 03-3326-5247

[E-mail] endo12@shirayuri.ac.jp

[大学ホームページ URL] <http://www.shirayuri.ac.jp/>